

『自分の幹が作れるような、素敵な高校生活を過ごしてください。』

(東京理科大学 理工学部 機械工学科卒業)

デジタルプロセス株式会社 VPS ビジネス部

設楽 大志 (高 61 期) (2009 年 3 月卒業)

■はじめに

『先輩からの手紙』を書いてほしいというオファーをいただきました。幾度も書き直すことになりましたが、やはり素直に経験したことを書いた方が皆さんに考えが伝わると思い本当に好き勝手に書かせていただきました。

これまで多くの方に支えられ、影響を受けて成長(?)してきました。大事にしていることは『人との繋がり(縁)』と『自ら決断して動く』です。高校生活でそれらの大切さに気づき自分の幹となっています。皆さんにはこの原稿を通して「こんな人があるんだ」と思っていていただいて、反面教師にでもしていただければ幸いです。この後色々と言いますが一言。高校生活は勉強するに越したことはありません。

■立高での思い出

高校時代はサッカー部に所属していました。色々な行事に積極的に顔を出し、好き勝手騒いでは行事が落ち着くと抜け殻のようになる学生でした。ここでは勉強と部活を通して私が大事にしている 2 つの幹が作られていった過程をお話ししたいと思います。

【勉強】

1 年生の中盤頃まで成績は悪くありませんでしたが、調子に乗っていたら 2 年生ではあっという間に最下位に近いところまで落ちてしまいました。2 年生の物理の授業中に PSP (今は懐かしき携帯ゲーム機) で遊んでいたら、廊下を通った担任に見つかり「ちょっと来なさい」と授業中にも関わらず呼び出され、職員室の奥で説教されて反省文を書かされました。担任の先生は(3 年間同じだったのですが)、本当に熱心に指導してくださいました。ちゃんと向き合ってくれ先生で、時には反発した時もありましたが感謝しています。皆さんも先生と真正面からぶつかってみてください。

こんな生活で勉強に対して空白の期間を作ってしまったため、3 年生になってからは朝から晩まで自習室で勉強をする羽目になりました。立高には志高い仲間がたくさんいたので、周りに触発され自分を律することができました。一人だったらすぐに怠けていたと思いますが、友人と一緒に頑張ることで気持ちを高めていたのを覚えています。私は性格的にも短期集中が向いており、現役で大学に入学することを決心して受験に励みました。もちろんコツコツと積み上げができる人ほど強い人はいません。是非あなたはそうであってください。

【部活】

高校でサッカー部に入部した理由は、単に中学でもサッカー部に所属していたからです。部自体は熱心な部でしたが、私は練習中に雑談にいそんだり休んでしまったりとそこまでするサッカーが好きになれずダラダラと過ごしていました。その上ヘタで公式戦の登録メンバーには一度も入れませんでした。普通サッカー部は 3 年生の春で引退なので、そのまま辞めようかと思っていました。しかし、ダラダラと所属していたのを少し後悔していたこともあり、改めてちゃんと取り組みたいと思い、引退せずに夏の大会まで続けることにしました。暑期中練習する上に受験勉強でも不利に働くので茨の道でしたが、自分で決断して「やってみよう」と勢いで踏み切ることにしました。技術は一朝一夕で身につくものではないのでヘタなままで、最後は怪我もしてしまって散々だったのですが、結果的にはこ

うした決断は良かったと思っています。真剣にサッカーに打ち込むことで部活仲間と本当の意味でわかりあえた気がしましたし、いがみあっていた後輩たちとも仲良くなれました。短期間でしたが一所懸命取り組んだと誇りに思うことができました。そして何よりサッカーが好きになりました。今でもサッカーは続けていて、気が付けば今は立川市サッカー協会の役員にまでなってしまいました。

きっかけはなんであれ、「自ら決断をして動いた」という気持ちは自分を動かす原動力になりました。立高生の多くは既に当たり前の様に自ら決断して動いているのではないかと思います。もし色々悩んでいる人がいるのなら、まずは決めて走り出してみてください。何かが見えてくるはずです。そして、そこで出会う仲間を大切にしてください。

熱心に取り組んだ思い出は15年近く経った今でも鮮明に覚えています。高校生は可能性に溢れています。この大事な日々を何となく過ごすのではなく、小さな事でもいいので熱意をもって取り組んでください。その1日1日、1分1秒がこれからのあなたの人生を変えていくはずです。

■大学での思い出

昔からSFやガンダムが好きで、ものづくりに興味があったので機械工学科を受験することにしました。模試の成績は悪く、浪人という雰囲気の家や担任にありましたが、運良く明治大学と東京理科大学に合格し理科大に進学することにしました。

また、立高の演コンで演劇の楽しさを知り、厳しい環境で演劇をしたくなりました。そこで、秦建日子先生が主催するワークショップのオーディションを受け、演劇活動を真剣に取り組むことにしました。部活を通して熱心に取り組む素晴らしさを覚えたので、演劇には最初から熱中し、ある時は週5で13:00-21:00で稽古に通いました。演劇を通して普段関わらないような方とたくさん出会い、色々な話を聞く機会に恵まれ、多くの知見を得ることができました。一方で、演劇にのめり込みすぎて1年生の時に大学の単位をほとんど落としてしまいました。大学の担任や友人に熱心に指導してもらい、2年生では演劇活動をセーブしつつ、なんとか進級して卒業することができました。ちなみに、(友人たちから怒られてしまいそうですが)大学の授業自体は楽しかったです。

大学生の本業は勉強ですが、『これに打ち込んだ』というものがあれば充実したものになるので、ぜひ何かに打ち込んでください。しかし、周りに迷惑をかけることもあるので感謝の気持ちを忘れないようにしましょう。

■今の仕事

私は情報通信系の企業に就職し、製造業(メーカー)に対して業務を効率化するソフトウェアの拡販業務を行っています。拡販業務とは、お客様に寄り添いながら企業へソフト導入の提案を行うと同時にソフト自体の強化にも関わる仕事です。営業のようでもあり、コンサルティングのようでもあり、開発のようでもあります。お客様と直接やり取りをするので、喜んでもらった時にやりがいを感じます。

この会社に入社するにあたっては、ものづくりに関わる仕事がしたかったこと、会社の雰囲気を入社したことなど、様々な要因がありました。学生時代で学んだことを活かし、しっかりと自ら決断して入社をし、そこで出会う方々との縁を大事にしています。お陰で充実した社会人生活を送れています。

大学へ進学をするうえではある程度将来の仕事を考えることにはなりますが、機械科に進学してメーカーではなくIT企業で働いているなんて想像もできませんでした。めぐり合わ

せは面白いものです。まだ将来の仕事が浮かんでいない方がいても、それが普通なので目の前にある課題をこなしていくうちに、見えてくるものがあるはずです。

■終わりに

拙い駄文に付き合っただけで、ありがとうございました。こうして原稿を書くことで、改めて私は多くの方に支えられて今があるということがわかりました。あなたもこれから色々な方に出会い、色々な話を伺う機会があると思いますがその一つ一つを大事にしてもらえたら幸いです。

最後に、恩師の大兼先生がこの文書を読んだらどんな気持ちになるだろうかと想像するとすこし冷や汗がでます。ニヤニヤしながら「君らしくていいじゃない」って言ってくれと信じて好きに書かせてもらいました。私の立高生活は大兼先生が3年間担任してくださったお陰で楽しく過ごすことができたので、感謝の気持ちでいっぱいです。

優秀な同級生を差し置いて寄稿することに少し抵抗はありましたが大好きな立川高校に少しでも役立ちたいと思って書かせていただきました。

読んでくださったあなたの高校生活が少しでも素敵になることを心より祈っています。